

新型コロナウイルス感染症アウトブレイクが保健医療従事者に与える心理社会的影響とその低減に向けた方略

～コロナ対応におけるメンタルヘルスとセルフケアの支援～

地域ケア開発研究所

○教授 増野園恵 他

キーワード

新型コロナウイルス, 保健医療従事者, 心理社会的影響
メンタルヘルス, セルフケア

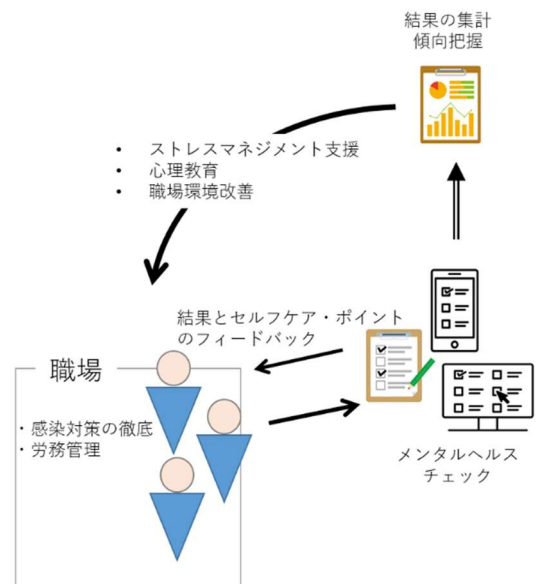
研究概要

この研究は、新型コロナウイルス感染症の蔓延が保健医療従事者に与える心理社会的影響を明らかにするとともに、保健医療従事者が感染症蔓延下の困難な状況にあっても、心身の健康を保ち役割を遂行できるための支援方法とその提供体制を検討することを目的に実施しました。研究では、①既存論文の検討、②保健医療従事者等を対象とした調査、③コロナ対応にあたる保健医療従事者等のセルフケア強化の介入を実施しました。

調査からは、保健医療従事者がコロナ対応において、高いストレス状態にあること、特に女性、直接患者に関わっている者で傾向が顕著であることが明らかとなりました。また、気持ちの表出ができていない者やストレス対処のセルフケアができていない者は低いストレス状態を保っていませんでした。さらに労務管理や職場の感染対策に対する認識がストレス反応に関連していました。

①～③の結果から、支援方略は次の5点にまとめられました。

1. 従事者のメンタルヘルス／職業性ストレスの定期的スクリーニング
2. 従事者が自ら行うストレスマネジメント
3. 職場管理者によるスタッフのストレスコーピングの組織的支援
4. 労務管理
5. 職場の感染対策の徹底



アピールポイント

今回の研究では、保健医療従事者を対象としましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延下では、特に対人サービスに従事する方々は、仕事上で感染の不安からくる業務上のストレスを体験していることと思います。研究で作成した感染症蔓延下での職業性ストレス・セルフケアのチェックリストや職場でのストレス対策に関するリーフレット、職場でのメンタルヘルスサポートに関する支援戦略は、他の産業界でも転用可能であると考えます。現在、研究結果を元に、「感染症蔓延下での職場のメンタルヘルス支援」に関する管理職向けの研修プログラムを作成しています。